

▷ 第10回 消化器疾患治療シンポジウム

平成29年9月7日(木)、ホテルメトロポリタン山形で「第10回消化器疾患治療シンポジウム」が開催されました。

今回は「肝疾患と痔疾患の最新治療」をテーマに3名の先生からご講演いただきました。

司会：山形大学医学部内科学第二講座 教授 上野 義之 先生

副院長 齋藤 善広 医師



演題Ⅰ 『当院における内痔核治療の現状』

演者：外科医長 設楽 英樹 医師

内痔核の治療に関して、痔核の種類、内痔核の主な症状やリスク、内痔核の病期分類等についてご講演いただきました。患者さんの主訴と症状に合わせて、患者さんに寄り添った治療を行うようにしています。



演題Ⅱ 『肝硬変搔痒感に対するナルフラフィン塩酸塩の有効性の検討』

演者：山形大学医学部内科学第二講座 講師 奥本 和夫 先生

肝硬変の患者さんの悩みの一つである搔痒感に対するナルフラフィン塩酸塩の有効性についてご講演いただきました。ナルフラフィン塩酸塩の投与後の経過については、患者さんの搔痒感を有意に改善した、重篤な副作用は生じなかった、効果のある症例は女性であったという結果が出ています。全症例における搔痒についての経過を提示しながら、わかりやすくご説明いただきました。



演題Ⅲ 『非専門医のためのC型肝炎最新治療と医療連携』

演者：消化器・肝臓内科部長 渡辺 久剛 医師

最新のC型肝炎治療とその問題点についてご講演いただきました。新しい経口抗ウイルス薬により100%近いC型肝炎が治るようになったものの、それぞれの治療法の特徴を踏まえ、薬剤師との連携が必要な治療法であることをご説明いただきました。C型肝炎は早期の治療介入が推奨されている一方、ウイルス排除後の肝発がんチェックなどの定期フォローが求められる疾患領域であり、そのためには行政・かかりつけ医・専門医とのフォローアップ体制の構築がより一層重要であることを解説いただきました。



今後も地域医療への貢献と医療技術の発展のため、先生方の御要望を伺いながら尚一層の努力を重ねて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

